

南海禅会の新たな出発

島崎 大猷

(関西支部・南海禅会)

南海支部は、中核団員の高齢化等で団員数が減少して1週間の摂心会が開催できなくなり、平成20年3月をもって解散しました。平成20年4月から、新たに南海禅会として再出発して1年半が経過しました。

南海禅会としての第1回参禅会は、平成20年6月28日から3日間総裁ほうこうあん 巖しゅんたん 光庵丸川春潭ごんしゅう 老師のもと厳修され、第2回参禅会は平成20年10月3日から3日間新たに師家代行に任命された巖がんこうあん 光庵佐々木真應しんのう 居士のもとで厳修されました。そして第3回参禅会は、平成21年2月20日から3日間担当師家として巖光庵老師のもと厳修されました。

平成21年度は、第4回参禅会が7月10日から3日間、第5回参禅会が10月2日から3日間、巖光庵老師のご指導のもと厳修されました。参加者は、第4回参禅会が10名、第5回参禅会が19名でした。第5回



静坐会

の19名のうち、新到者は8名でした。和歌山大学の学生3名の参加もありました。

現在の南海禅会の会員だけでは参禅会の運営もできない状況で、関西道場の応援を受けながら参禅会を開催し

ていますが、今後の道場の発展を考えた場合、南海禅会の人間でできる限り参禅会をやっていくということが大切だと痛感しています。

今後、新到者の参加をさらに増やしていくよう広報にも力を入れていきたいと考えています。また、第1回参禅会に老師を交えて新到者と座談会を行ったのですが、このような工夫もさらに重ねていきたいと考えています。

静坐会は、会員数4名と少ない中で運営していますが、毎月第1土曜日と第3土曜日は朝8時から、第2木曜日と第4木曜日は夜7時から行っています。静坐会への参加者は多い時で10名ほど、少ない時は1名で坐っている状況です。

南海道場は和歌山市内の中心部に位置する寺町通りに面した窓誉寺の境内にあるので、比較的新到者は多いのですが、新到者の方に対する接し方に工夫が足りないのでしょうか、定着して継続される方が少ないのが実態です。このうちの1名が第3回参禅会から参禅を体験しています。

巖光庵老師は普段の静坐会にも参加されることがあり、新到者に静坐をご指導いただくこともあります。

日常の作務^{さむ}としては、道場内の整理整頓、坐具の更新等道場の基盤整備から少しずつ進めています。また、道場をお貸しいただいている窓誉寺様の境内の掃除も、新到者の協力を得ながら行っています。普段の作務の重要性については、老師からもご指摘を受けており、今後も力を抜くことなくやらねばなりません。

心機一転南海禅会として再出発したのですが、禅会を発展させていくためには、南海支部当時の継承すべきところは継承し、変えるべきところは変えていかねばなりません。

老師からは、常々「仲良くすることが大切だ。」とご指導を受けています。

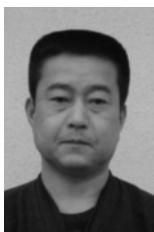
全国の道友や関西支部道友のご協力を得ながらの道場運営ですが、巖光庵老師のご指導のもと、会員一同正しく・楽しく・仲良く、道を切り開いてゆきたいと思っています。

合掌



第4回参禅会(H21.7.12)

著者プロフィール



島崎大猷^{だいゆう}（本名ノ茂人）

昭和37年、和歌山県生まれ。自営業。平成6年、人間禅松崎廓山老師に入門。現在、人間禅輔教師。